

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜ペットビジネス科＞

科目名	グルーミング実習Ⅰ	
担当教員の実務経験	ペットショップにてトリマーの実務経験がある。 動物看護師としての経験がある。	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年	
授業時間数・単位数	110 コマ	7 単位
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	グルーミング技術の習得。 犬種ごとに安全なグルーミングを出来るようにする。	
授業の到達目標	基本のグルーミング・ベーシック・クリッピング技術を習得し、目標時間内に仕上げる。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習	担当犬のカルテを事前にチェックする。 実習終了後はトリミング記録を記入し提出する。	
使用教科書・教材・参考書	ドッグ・グルーピング・ブック ベスト・トリミング 動物看護実習テキスト」	
授業上の注意点	モデル犬の予約状況により、内容が変更する場合がある。	
授業計画（内容）		コマ数
グルーミング技術の習得① ブラッシング、コーミング、爪切り、耳そうじ		15
グルーミング技術の習得② シャンプー、ブロー		15
グルーミング技術の習得③ 基本的なクリッピング法を学ぶ（足裏・腹部・肛門周り）		5
グルーミング技術の習得④ 基本的なトリミング法を学ぶ（足周り・ヒゲ切り）		5
小型犬のスタンダードを1人で1頭仕上げる（チワワ・ダックス・パピヨンなど） 基本作業の技術向上と共に1人での保定法を身に付けていく。時間を意識した作業を行う。		15
中型犬のスタンダードを1人で1頭仕上げる（コーギー・シェルティ・柴など） サイズの大きい犬を1人で扱うことで更なる保定法・犬の扱いを学ぶことが出来る。		5
大型犬のスタンダードを2人で1頭仕上げる（ゴールデンレトリバー・秋田犬など） 作業の効率UPを考え2人で協力し実習を行う。		10
クリッパーワークの習得（ボディ・顔バリ・足バリ）		5
プードルのグルーミング技術の習得（ブロードライニングの技術を身につける）		10
2人で小型犬のグルーミングを1日2頭仕上げる。		5
中型犬・大型犬のグルーミングを効率よく行い時間短縮し仕上げる事が出来る。		10
実技試験に向けた模擬テスト トイ・プードルなどの長毛種のグルーミング作業を90分で仕上げる事が出来る。		10
合計		110
授業単位数		7

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜ペットビジネス科＞

科目名	ビジネスマナー実習	
担当教員実務経験	銀行秘書	
対象学生	総合ビジネス科、ビジネス専攻科、情報システム科、ペットビジネス科、経営情報科	
授業時間数・単位数	6コマ	・ 1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	あいさつ、正しい敬語の使い方、来客対応の使い方、電話対応、ビジネス文書の書き方について、講義と実習で身につける	
授業の到達目標	講義と実習を通して、社会人として必要なビジネスマナーを習得する。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率、提出物等を総合的に判断して評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	関西レディースコーポレーション　すぐに役立つビジネスマナー	
授業上の注意点		
授業計画（内容）	コマ数	
	社会人の基本マナー（身だしなみ・あいさつ・正しい敬語・コミュニケーション） 講義と実習	1
	来客対応 講義と実習	1
	ビジネス訪問 講義と実習	1
	電話対応 講義と実習	1
	ビジネス文書 交際マナー講義と実習	1
	まとめ 実技テスト	1
	合計	6
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜ペットビジネス科＞

科目名	ペットビジネス総合実践Ⅰ（店舗・イベントプロデュース）	
担当教員の実務経験	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業内広報部において、マーケティングリサーチ・分析・企画・広告・宣伝活動ならびに広報広告物およびWEBページの制作の経験がある。 ・事務職において受付業務や銀行業務等の経験がある。 ・商品販売（ならびにアドバイザーとして）の経験がある。 <p>② ペットショップにて実務経験がある。</p> <p>③ ワンちゃん大運動会 企業担当者 株式会社スペースプロジェクト（イベント会社）勤務。同社は、イベントプロデュースならびに技術分野においてマルチな活躍をする企業である。イベントの企画・運営としての実務を行っている。</p>	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年	
授業時間数・単位数	53コマ	3単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	<p>① マーケティング・販売学を応用し、ワークショップならびに学園祭の出店を計画する。利益追求、消費者心理、サービスから広告戦略など多方面から分析し、企画した“ビジネス”の成功を目指す。</p> <p>② 地元企業と連携しペット関連イベントの企画・運営を行う（秋田市主催「健康のつどい」協賛事業 株式会社スペースプロジェクト「ワンワンドリームフィールド」内の「ワンちゃん大運動会」）。具体的な企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人としての基礎力と人間力をつける。「最終的な目的達成」のために必要なプロセスとプランニングに時間軸を敷き、実際のイベント企画・運営を通して顧客満足度からリスク管理までを体系的に学ぶ。</p>	
授業の到達目標	<p>① 作り上げた店舗にて多方面から顧客心理に寄り添った店舗企画ができる。</p> <p>② イベントの企画から運営までを実際に体験しノウハウを身につける。グループワークで各自が役割に対する責務を果たすことによりチーム全体の力を発揮することができることを体得し、グループの中での個の在り方を認識する。自分達の考えたイベントが来場者にどう評価されたかを調査・分析し客観的評価ができる。</p>	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験・レポート）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習	進捗状況により時間外にも作業に取り組む場合があります。その場合は取得時間数に反映させます。	
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点	イベント企画内容は例年の内容にて掲載しています。 感染症拡大防止の観点により、イベントの中止が判明した場合は課題を変更いたします。	
授業計画（内容）		コマ数

イベントとは？意義と目的について、プランニングと運営について考える	1	
企画会議	1	
店舗企画※学園祭・ワークショップ（コンセプト、商品、POP制作、空間プロデュース）	20	
（制作・仕入れ／グループワーク）		
（広報・宣伝活動）		
（運営管理※当日）	5	
イベント企画※ワンちゃん大運動会（昨年度からの改善点、イベント内容の検討）	20	
（運営シミュレーションと分析）		
（主催者との打ち合わせ）		
（リスクマネジメント）		
（制作・仕入れ／グループワーク）		
（広報・宣伝活動）		
（運営管理※当日）	5	
結果の分析（レポート）	1	
	合計	53
	授業単位数	3

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜ペットビジネス科＞

科目名	マーケティング・販売学	
担当教員の実務経験	④ 企業内広報部において、マーケティングリサーチ・分析・企画・広告・宣伝活動ならびに広報広告物およびWEBページの制作の経験がある。 ⑤ 事務職において受付業務や銀行業務等の経験がある。 ⑥ 商品販売（ならびにアドバイザーとして）の経験がある。	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年	
授業時間数・単位数	15コマ	1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	① 販売やサービスの基本となるマーケティングについて理論を学ぶ。 ② 理論で学んだことを、実際の店舗展開（ワークショップ、学園祭）にて実践を行い利益と顧客満足の両方を追求することで体得する。	
授業の到達目標	マーケティングの基礎理論を理解する。	
成績評価方法と基準	最終レポートにて、計画～実践結果までの事実を正しく分析できているか。 出席率70%以上。	
準備学習・時間外学習	市場に興味を持つことから理解を深めるため、市場調査ならびに商品研究は学習時間外にも調査・研究することを求めている。	
使用教科書・教材・参考書	ペットビジネスプロ養成講座「ペットショップ」（インターズー） 他、適宜、必要資料を配布。	
授業上の注意点	提出物の期限は守ること。	
授業計画（内容）		コマ数
マーケティングとは何か		1
消費者の購買行動		1
市場調査		1
商品研究		1
商品企画・商品計画		1
販売計画・販売価格		1
仕入計画		1
店舗計画		1
商品管理		1
売上管理		1
広告・宣伝		1
最終レポート		1
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜ペットビジネス科＞

科目名	犬種総論	
担当教員の実務経験	ペットショップにてトリマー、生体販売の実務経験がある。	
対象学生	ペットビジネス科 1年	
授業時間数・単位数	17 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [O] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各犬種の名称、スタンダード、歴史の基本を学ぶ ・ 各グループ分けについてのルーツを学ぶ 	
授業の到達目標	犬種の特徴を知ることで扱う際の注意点を身につける。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	最新犬種図鑑（インターズー）	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	ケネル・クラブ、犬種用途、血統書について。犬種標準とは。	1
	第1グループ シープドッグ&キャトル・ドッグ（スイス・キャトル・ドッグを除く）	1
	第2グループ ピンシャー&シュナウザー、モロシアン犬種、スイス・マウンテン・ドッグ&スイス・キャトル・ドッグ、関連犬種	2
	第3グループ テリア	2
	第4グループ ダックスフンド	1
	第5グループ スピッツ&プリミティブ・タイプ	1
	第6グループ セントハウンド&関連犬種	1
	第7グループ ポインティング・ドッグ	1
	第8グループ レトリバー、フラッシング・ドッグ、ウォーター・ドッグ	1
	第9グループ コンパニオン・ドッグ&トイ・ドッグ	2
	第10グループ サイトハウンド	1
	犬の体に関する基礎知識	1
	用語・毛色	1
	確認小テスト、解説	1
	合計	17
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	公衆衛生学 I	
担当教員の実務経験	動物看護師としての経験がある	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年生	
授業時間数・単位数	30コマ	・ 2単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	
授業の到達目標		
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。課題問題、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	応用動物看護学②公衆衛生学	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
第1章 動物看護師と公衆衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公衆衛生の目的 ・ 公衆衛生行政と獣医師 ・ 国民衛生の動向 ・ 動物看護師と公衆衛生 ・ 演習課題 	6
第2章 疫学と疾病予防	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疫学とは ・ 健康障害の発生要因 ・ 疫学の指標 ・ 疫学研究方法 ・ 感染と流行 ・ 感染症対策 ・ 非感染症の疫学 ・ サーベイランス ・ 演習問題 	6
第3章 人獣共通感染症（動物由来感染症）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病原体等に関する安全対策 ・ ウイルス、細菌、リケッチア、真菌 ・ 寄生虫 ・ 新興感染症と再興感染症 ・ 狂犬病予防の重要性 ・ 演習問題 	6
第4章 食品衛生		6

<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品衛生法 ・ 食中毒 ・ 食品とアレルギー ・ 食品の保存方法 ・ 食品安全行政の動向 ・ 食品由来の健康危害防止 ・ 演習問題 	
<p>第5章 環境衛生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境衛生とは ・ 地球規模の環境問題 ・ 水の衛生 ・ 生活環境問題 ・ 廃棄物問題 ・ 衛生動物 ・ 演習問題 	6
合計	30
授業単位数	2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜ペットビジネス科＞

科目名	動物愛護活動 I	
担当教員の実務経験	秋田県動物愛護推進協議会委員を務める	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年生	
授業時間数・単位数	19コマ	1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	動物愛護活動に取り組む。 秋田県動物愛護推進計画を理解する。	
授業の到達目標	秋田県動物愛護フェスティバルにおいて、イベントを盛り上げるための、ボランティアとして参加することにより、秋田県の取り組みならびに地域そのものと触れ合うことで、愛玩動物飼養管理士として行うべき普及啓発活動の意味とペット業界従事者に求められていることを理解する。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験・レポート）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	資料配布	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
秋田県動物愛護推進計画を理解する		2
いのちを繋ぐ取り組みについて理解する		
動物愛護フェスティバルについて理解する		
秋田県動物愛護フェスティバルについて概要を理解する		6
秋田県動物愛護フェスティバルでのボランティアを計画する		
犬猫保護団体について理解する		10
犬猫保護団体へのボランティアを行う（NPO法人いぬねこネットワーク秋田）		
レポート		1
合計		19
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物医療コミュニケーション	
担当教員の実務経験	動物看護師としての経験がある。	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年生	
授業時間数・単位数	15コマ	・ 1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ。	
授業の到達目標	円滑なコミュニケーションをとることができる。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	臨床動物看護学①医療コミュニケーション	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
第1章 獣医療面接 1. コミュニケーション能力 2. 動物看護学における獣医療面接 3. 獣医療面接を用いた事前問診の方法 4. 身体検査 5. 獣医療面接の終え方 6. その他の獣医療面接の技法を使った具体的な対応 演習問題	4	
第2章 クライアントエデュケーション（飼い主教育） 1. クライアントエデュケーション（飼い主教育）とは 2. 臨床現場での例題による飼い主指導のポイント（飼養管理を除く） 演習問題	4	
第3章 院内コミュニケーションと病院マネジメント 1. チーム獣医療に欠かせないコミュニケーション能力の基本 2. 病院マネジメントにおける財務管理 演習問題	4	
第4章 動物医療グリーフケア 1. グリーフ（Grief）とは 2. ペットのグリーフ 3. グリーフケアコミュニケーションの実践 4. ペットロスへの援助 5. ホームドクターに従事する動物看護師の役割 演習問題	3	
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物感染症学	
担当教員の実務経験	獣医師 動物看護師	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年生	
授業時間数・単位数	45コマ	3単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を修得する。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。	
授業の到達目標	感染症についての基礎を理解し、対策をとることができる。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	基礎動物看護学③動物感染症学	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
第1章—1	微生物、感染症および微生物学の歴史	1
第1章—2	ウイルス学総論(分類、大きさと構造、増殖・感染・変異)	4
第1章—3	細菌学総論(分類、大きさ・構造・形態、増殖・代謝、遺伝子、感染・発症)	4
第1章—4	真菌学総論(分類と特徴、増殖要因、増殖様式と真菌種名、ズーノーシス)	4
第1章—5	プリオン総論（異常型プリオン）	2
第1章—6	微生物検査法（バイオセーフティ、滅菌と消毒、検査法、プリオン病の検査・診断法、薬剤感受性試験）	2
第1章—7	感染防御に関わる免疫と予防・治療（感染症と病原体および生体防機構、予防ワクチンとワクチネーションプログラム、抗ウイルス薬と抗菌薬）	4
第1章—8	感染症の制御・制圧（行政による対策と対応）	2
第1章—9	感染症学各論（犬と猫の感染症…ウイルス病14種、細菌病3種、真菌症1種、産業動物の感染症…ウイルス病8種、細菌病4種、プリオン病2種、実験動物の感染症、エキゾチックペットの感染症、野生動物の感染症）	4
第2章—1	動物寄生虫学総論（歴史、寄生虫と動物寄生虫の重要性、寄生虫と宿主の相互関係、分類、生活環と生殖法、感染経路と伝播形式、病害と宿主の反応、ズーノーシス、治療、看護とケア、予防対策）	4
第2章—2	原虫類（総論、各種）	4
第2章—3	蠕虫類（総論、形態、生活環、分類、線虫類総論…各種・治療・看護とケア・予防対策、吸虫類総論…各種・治療・看護とケア・予防対策）	4
第2章—4	衛生動物（総論、各種）	2
第2章—5	寄生虫症の診断と検査（総論、固定・染色および検査法）	2
確認テスト		2
	合計	45
	授業単位数	3

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物看護学概論	
担当教員の実務経験	動物看護師としての経験がある	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年生	
授業時間数・単位数	30コマ	・ 2単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	
授業の到達目標	職務、責務を正しく理解し動物看護師としての意識を形成する。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	応用動物看護学①動物看護学概論	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
第1章 獣医療の歴史と概念 1. 獣医療の歴史 2. 獣医療倫理 3. 動物看護の歴史と概念 演習問題		5
第2章 動物看護の基本となる概念 1. 動物看護とは 2. 動物看護における倫理 3. 動物にとっての福祉・健康・QOL 4. 看護動物に影響を与える環境要因 5. 動物看護が果たすべき役割 6. 動物看護の探求 演習問題		5
第3章 動物看護学の成立と特徴 1. 動物看護学（師）教育の変遷 2. 動物看護理論の成立過程 3. 動物看護学の成立 4. 動物看護学における課題 5. 動物看護学と高等教育 6. 動物看護実践と動物看護学研究 演習問題		5
第4章 動物看護師の役割 1. 認定動物看護師の誕生 2. 動物看護学カリキュラムと国家資格化への道のり 演習問題		5
第5章 専門職能団体の活動 1. 職域に関する行政組織 2. 動物看護に関連する専門機関 3. 動物看護に関連する職能団体 4. 獣医療・動物福祉関連の動向		5

演習問題	
まとめ、確認テスト	1
	合計 30
	授業単位数 2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物看護総合実習 I	
担当教員の実務経験	各実習施設先の獣医師、動物看護師、動物園飼育作業員等	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年生	
授業時間数・単位数	90コマ	・ 6単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。	
授業の到達目標	業務体験を通し専門職業人意識を高める。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。実習評価、実習簿の提出および出席率等により総合的に評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	動物関連施設におけるインターンシップ実習および講話	15
	動物病院におけるインターンシップ実習	75
	合計	90
	授業単位数	6

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物形態機能学	
担当教員の実務経験	[○] 看護師 [○] 動物看護師	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年生	
授業時間数・単位数	60コマ	・ 4単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。	
授業の到達目標		
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	医学入門、基礎動物看護学①動物形態機能学	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
人間の身体の全体像を知る		2
第1章 細胞・組織について (第1章 生命のすがた…物質、細胞、遺伝、組織、器官、調節システム) ○演習問題		6
第2章 血液・リンパ液・免疫について (第2章 血液と造血器…血球・血漿成分、赤血球・白血球の構造と機能、血小板機能と血液凝固機序及び線維素溶解) (第4章 生体の防御機構…防御機構、自然免疫、獲得免疫) ○演習問題		6
第3章 循環器系の働きと疾病について (第3章 血液循環とその調節…循環器系の概要、心臓のしくみ、心筋、周期、心電図、心臓機能の調節、血管のしくみと働き、血液循環調節、毛細血管(物質の移動)) ○演習問題		6
第3章 呼吸器系の働きと疾病について (第9章 呼吸とその調節…呼吸器の構造と呼吸、ガス交換) ○演習問題		6
第5章 骨格・筋系の働きと疾病について (第7章 からだの支持と運動…体の位置・方向を示す用語と表面解剖学的区分、骨格、骨格筋) ○演習問題		6
第4章 消化器系の働きと疾病について (第11章 消化吸収と栄養代謝…歯の分類と数、舌の形と働き、咽頭と嚥下、食道、胃腸、唾液腺、膵臓、肝臓、栄養素、栄養吸収、代謝総論、栄養素の分子のしくみ、代謝経路) ○演習問題		6
期末テスト・解説		3
第5章 泌尿器系の働きと疾病について		6

(第12章 尿の生成と体液調節…腎臓、尿路、体液、電解質バランス、酸・塩基平衡) ○演習問題	
第8章 生殖器系の働きと疾病について (動物繁殖学にて解説)	2
第9章 内分泌系の働きと疾病について (第10章 内分泌とホルモン…内分泌とは(外分泌と傍分泌との違い)、ペプチドホルモン、ステロイドホルモン、アミン型ホルモン、内分泌系の基本構造と機能、視床下部、下垂体、甲状腺、情飛翔体、副腎、ランゲルハンス島、消化管ホルモンの機能) ○演習問題	6
第10章 神経系の働きと疾病について (第5章 脳と神経…脳と神経系の役割、神経系を構成する細胞、静止膜電位と活動電位、興奮の伝導とシナプス伝達、シナプスとは(興奮性と抑制性)、神経伝達物質と受容体、神経回路、神経系、脳の構成要素、脳神経、脊髄と脊髄神経、自立神経系、行動の神経調節) ○演習問題	6
第11章 感覚器系の働きと疾病について (第6章 感覚と情報伝達…感覚系とは、受容器、体性感覚、嗅覚、味覚、聴覚と平衡感覚、視覚) (第8章 外皮系と体温調節…外皮、皮膚の付属器官、皮膚による体温調節機構) ○演習問題	6
第12章 感染症について (動物感染症学にて解説)	2
期末テスト・解説	3
	合計 60
	授業単位数 4

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物形態機能学実習	
担当教員の実務経験	[○] 獣医師 [○] 動物看護師	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年生	
授業時間数・単位数	30コマ ・ 2単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	
授業の到達目標		
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。授業態度、テスト、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	動物看護実習テキスト	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	骨格および筋肉の形態と機能	5
	各部位・臓器の位置や関係性	5
	主要臓器の組織像	5
	顕微鏡操作法	12
	テスト	3
	合計	30
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物行動・人間関係学	
担当教員の実務経験	動物看護師としての経験がある	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年生	
授業時間数・単位数	30コマ	・ 2単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的および社会学的側面から理解する。	
授業の到達目標	正しく理解し、説明することができる。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。課題、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	応用看護学①人間動物関係学 応用動物看護学③動物行動学	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
＜人間動物関係学＞		
第1章 人と動物の関わりの歴史 1. 人と動物の関わり 2. 文学・芸術における動物：日本 3. 日本と西洋における動物との関わりの比較 演習問題		2
第2章 現代の人と動物の関わり 1. 動物の飼育と利用の現状 2. 人の生活に貢献する動物の役割 演習問題		1
第3章 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育 1. 動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育の定義と歴史 2. 動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育を効果的に実施するには 演習問題		1
第4章 使役動物 1. 使役動物の歴史と福祉 2. 身体障害者補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬） 3. その他の使役犬 演習問題		1
第5章 ペットの飼育 1. 人はなぜペットを飼うのか—人が動物をペットとして飼育する理由— 2. ペット飼育の歴史と現状 3. ペットの飼育—人と動物がともに幸せに暮らすために必要なこと— 4. ペットへの愛着と依存 5. ペットロスの定義と対策		1

演習問題	
第6章 動物虐待 1. 動物虐待の定義と背景 2. 動物虐待への対処 3. 動物虐待の現状と法規制 演習問題	1
第7章 ペット産業の現状 1. はじめに 2. ペットの飼育頭数と飼育率 3. 法律に規定されている動物取扱業 4. ペットビジネスの分類 5. ペット産業の経済動向 6. 動物病院の実態 7. 動物病院以外のペットビジネスの経済動向 8. 動物看護師の求人動向 9. 本章のまとめ 演習問題	2
<動物行動学> 第1章 動物行動学の基本概念 1-1 動物行動学の発展と行動学研究の4分野 1. 動物行動学の成り立ちと発展 2. 行動学研究の4分野 1-2 行動の進化と適応 1. 行動の進化と適応 2. 家畜化に伴う行動学的変化—犬を例として 演習問題	2
第2章 維持行動 1. 摂食行動 2. 飲水行動 3. 排泄行動 4. 身づくろい行動 5. 護身行動 演習問題	2
第3章 社会行動 3-1 群れの社会構造 1. 動物の社会行動とは 2. 群れの構造と行動 3. 社会性が不明瞭な動物の集団 3-2 生殖行動 1. 哺乳類の生殖戦略 2. 性行動 3. 母性行動（育子行動） 3-3 コミュニケーション行動 1. 動物のコミュニケーション行動と感覚世界 2. 犬の視覚・聴覚を用いたコミュニケーション行動 3. 猫の視覚・聴覚を用いたコミュニケーション行動 4. 犬と猫の嗅覚を用いたコミュニケーション行動 3-4 敵対行動と親和的行動 1. 敵対行動 2. 親和的行動 演習問題	2
第4章 行動発現のしくみ 4-1 行動の動機づけと脳による行動の制御 1. 行動の動機づけ 2. 脳による行動の制御 4-2 行動の周期性 1. 行動の日周リズム 2. 行動の年周リズム 3. その他の周期性 演習問題	2

<p>第5章 行動の発達と学習</p> <p>5-1 行動の発達</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行動の発達科学 2. 新生子期 (犬) 3. 移行期 (犬) 4. 社会化期 (犬) 5. 若年期 6. 成熟期から高齢期 7. 猫の行動発達 <p>5-2 遺伝的要因と環境要因が行動発達に与える影響</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会構造の影響 2. 母性行動の影響 3. 遺伝と環境 <p>5-3 馴化と感作 —学習に影響を与える因子</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 馴化 2. 感作と脱感作 3. 般化 4. 学習に影響を与える因子 <p>5-4 古典的条件づけとオペラント条件づけ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 古典的条件づけ 2. 高次条件づけ 3. オペラント条件づけ 4. 三項随伴性 5. 条件づけの方法と消去 6. 反応形成 <p>COLUMN 行動学用語とトレーニング用語</p> <p>演習問題</p>	3
<p>第6章 問題行動と行動診療</p> <p>6-1 問題行動とは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正常行動・異常行動・問題行動とは 2. 問題行動の関連因子 3. 動物看護師にとっての臨床動物行動学の必要性 <p>COLUMN 動物の行動の観察記録方法</p> <p>6-2 問題行動診療の手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行動診療とは 2. カウンセリングとコンサルテーション 3. 獣医師の役割 4. 動物看護師の役割 5. 問題行動の客観的評価法 6. 治療プログラムの作成とフォローアップ <p>6-3 行動修正法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題行動を発現させている刺激を操作し、問題行動を減らす行動修正法 2. 問題となっている行動を別の行動と置き換える行動修正法 (行動置換法) 3. 問題行動に関わる強化子・罰を操作し、問題行動を減らす行動修正法 <p>6-4 問題行動診療で用いるその他の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物療法 2. 不妊手術 (避妊手術・去勢手術) 3. その他の外科的療法 4. 合成フェロモン 5. 食事療法とサプリメント 6. 基本的なトレーニング 7. 問題行動診療の助けになるグッズ <p>COLUMN 動物病院が嫌いにならないようにするには?</p> <p>演習問題</p>	3
<p>第7章 犬と猫における主な問題行動</p> <p>7-1 攻撃行動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 犬の攻撃行動 2. 犬の攻撃行動に関係する生得的因子と環境因子 3. 猫の攻撃行動 4. 猫の攻撃行動に関係する生得的因子と環境因子 5. 犬と猫の攻撃行動の治療 <p>7-2 恐怖・不安に起因する問題行動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 恐怖・不安とは 	3

<p>2. 恐怖・不安に起因する問題行動の種類・定義・診断基準 3. 恐怖行動・不安行動に関する生得的因子と環境因子 4. 恐怖行動・不安行動の治療 7-3 猫の排泄に関する問題行動 1. 猫の排泄に関する問題行動の定義・診断 2. 排泄に関する問題行動に関連する生得的因子と環境因子 3. 猫の排泄に関する問題行動の治療 7-4 犬と猫の高齢性認知機能不全 1. 定義・診断 2. 病因と寄与因子 3. 治療 —進行を抑える— 演習問題</p>	
<p><第8章 問題行動の予防> 8-1 伴侶動物の適切な選択と適正飼養 1. 伴侶動物の適切な選択 2. 犬と猫の適正飼養 8-2 子犬教室と子猫教室 1. 十分な社会化 2. 子犬教室 3. 子猫教室 4. 子犬教室や子猫教室のメリット 8-3 その他の具体的な予防方法 1. 馴化と社会化 2. 適切な環境の提供 3. 飼い主と動物の絆の構築 4. 適切なしつけ 5. 不妊手術（去勢手術・避妊手術） 6. 問題行動に関する知識の提供 COLUMN 動物病院とドッグトレーナーの役割分担 演習問題</p>	4
合計	30
授業単位数	2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物飼養管理学 I	
担当教員の実務経験	ペットサロンにてトリマーおよび生体販売の経験がある	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年生	
授業時間数・単位数	30コマ	・ 2単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法、およびエキゾチック動物の生態について学ぶ。	
授業の到達目標	2級愛玩動物飼養管理士合格	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	応用動物看護学③伴侶動物 2級愛玩動物飼養管理士テキスト	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
第1章 犬 1. 歴 史 2. 現在の飼育状況 3. 犬の活用 4. 代表的な品種の特徴 5. 飼養管理 6. 動物福祉を考えた飼育 7. 家庭犬のしつけ 演習問題		8
第2章 猫 1. 歴 史 2. 現在の飼育状況 3. 猫の活用 4. 特 徴 5. ライフサイクル 6. 代表的な品種の特徴 7. 飼養管理 演習問題		8
第3章 ウサギ 1. 背 景 2. 飼養管理 第4章 げっ歯類 ハムスター・モルモット 1. 背 景 2. ハムスターの分類・生態・特徴 3. ハムスターの飼養管理 4. モルモットの分類・生態・特徴 5. モルモットの飼養管理 第5章 フェレット		8

1. 背景 2. 飼養管理 演習問題	
第6章 馬 1. 歴史 2. 馬の活用 3. 現在の飼育状況 4. 代表的な品種の特徴 5. 飼養管理 演習問題	2
第7章 飼鳥 1. 歴史 2. 現在の飼鳥の飼育状況 3. 代表的な品種の特徴 4. 飼養管理 演習問題	2
第8章 爬虫類 1. 背景 2. カメの品種 3. 飼養管理 演習問題	2
第9章 エキゾチックアニマルの繁殖過程 1. 性周期 2. フェレット 3. ウサギ 4. げっ歯類 5. 鳥類 演習問題	2
	合計 30
	授業単位数 2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物内科看護学	
担当教員の実務経験	動物看護師としての経験がある	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年生	
授業時間数・単位数	15コマ	・ 1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。	
授業の到達目標	正しく理解し記述することができる。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	応用動物看護学①動物看護学概論	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
第1章 動物の健康保持 1. 入院動物の日常管理 2. 動物種による管理上の注意点 3. 排泄の管理 4. ワクチネーション 5. 外部寄生虫の確認 6. 老齢動物の入院看護 7. 幼若動物の入院看護 8. バイタルサインの確認 9. 入院動物に関するその他の業務 演習問題	2	
第2章 衛生・安全管理と環境整備 1. 標準予防策の実際 2. 検疫と隔離 3. 感染コントロール 4. 安全管理対策 5. 動物飼養管理中の事故防止 6. 動物に応じた環境調整 7. 動物に応じた入院室整備 演習問題	2	
第3章 対動物関係の技術 1. 動物へのアプローチ 2. 安全な散歩および運動技術 3. ハンドリングと保定法 4. 動物の処置や検査、状態にあわせた保定法 5. 安楽な姿勢 6. 罨 法 演習問題	1	

<p>第4章 動物の生活を援助するための技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な食生活 2. 栄養状態の評価と栄養管理 3. 栄養の補給法 4. 摂食行動のアセスメントと援助方法 5. 排泄行動のアセスメントと排泄物の観察 6. 自然な排泄を促す援助方法 7. 強制的な排泄 8. 外科的な排泄障害 9. 清潔行動のアセスメントと援助方法 10. 身体各部の清潔の援助方法 11. 褥瘡の予防と処置 12. 休息・睡眠状態のアセスメントと援助方法 <p>演習問題</p>	2
<p>第5章 診察時に必要な補助</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診察時における動物看護師の役割 2. 診察時における対象動物の心理 3. 診察時における飼い主の心理 4. 診察時に必要な器具とその準備、管理方法 <p>演習問題</p>	1
<p>第6章 侵襲的処置の介助技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 穿 刺 2. カテーテルの挿入・留置および管理 3. 侵襲の可能性を伴うその他の処置 <p>演習問題</p>	1
<p>第7章 投薬の援助技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 投薬に際して確認すべき項目 2. 各剤形の取り扱い 3. 薬剤の保存 4. 投与方法とその介助 <p>演習問題</p>	1
<p>第8章 輸液に関わる技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 輸液処置時における動物看護師の役割 2. 輸液の適応とリスク 3. 輸液計画 4. 各種輸液剤の適応や特性 5. 輸液に関わる手技 6. 静脈留置針設置の準備と手順 7. 輸液処置中のモニタリング <p>演習問題</p>	2
<p>第9章 輸血に関わる技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 輸血とは 2. 輸血の適応 3. 輸血のリスク 4. 血液型と輸血 5. 輸血計画 6. 輸血の手順 7. 輸血後の血液検査 <p>演習問題</p>	2
<p>まとめ、確認テスト</p>	1
合計	15
授業単位数	2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜ペットビジネス科＞

科目名	動物内科看護実習 I A	
担当教員の実務経験	ペットショップで生体管理の実務経験がある	
対象学生	ペットビジネス科 1年	
授業時間数・単位数	30 コマ	2 単位
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。学校犬および猫の飼養管理を行い、適切な飼育や掃除の仕方、扱い方を身に付ける。直接管理することで生き物に対する責任感を身に付ける。	
授業の到達目標	犬舎犬・猫について基本的な飼育が出来る。 衛星的な環境を保っている。 体調管理の上で生ずるものに対応することができる。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験・レポート）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習	土・日・祝日・長期休暇の場合は当番制で管理を行う。	
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物飼養管理2級教本 コンパニオンアニマルの新健康管理学（インターズー）	
授業上の注意点	少しでも異常が認められる場合は速やかに報告してください。	
	授業計画（内容）	コマ数
	犬舎の掃除の仕方を学ぶ。管理記録台帳の記入の仕方を学ぶ。	14
	適切な消毒方法を理解する。	2
	犬との接し方を理解する。	2
	犬の飼育に必要な道具を理解しつかいこなせるようになる。	2
	犬を観察し、その犬の性格や行動を理解する。	2
	犬の運動について理解を深める。	2
	犬の健康管理について理解を深める。異常と正常の違いを知る。記録の記入の仕方を学ぶ。	2
	健康維持をするために、どのようなボディケアが必要かを理解する。	2
	犬の食事について理解を深め、食事の与え方を学ぶ。	2
	合計	30
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物内科看護実習 I B	
担当教員の実務経験	トリマーとしての経験がある。 動物看護師としての経験がある。	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年生	
授業時間数・単位数	15コマ	・ 1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	各犬種のトリミングについて必要な技法を学ぶ。また、トリミング時に必要な健康チェック、皮膚等の異常を発見できるようにすること、シニアや病気を抱えている場合のトリミングの注意点を学び、メディカルトリマーを養成する。	
授業の到達目標	理論を理解した上で実践することができる。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	動物看護実習テキスト	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	シャンプー、トリートメント剤の種類	1
	シャンプーと薬浴	2
	ブラッシング、コーミング	2
	ドライング	2
	爪切り	1
	耳掃除	1
	肛門囊絞り	1
	クリッピング	1
	高齢動物のケア	2
	罹患動物のケア	1
	エンジェルケア	1
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物内科看護実習 I C	
担当教員の実務経験	獣医師 動物看護師	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年生	
授業時間数・単位数	15コマ	1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	
授業の到達目標	スムーズに作業ができる。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習	反復練習を行い、スムーズな手技へとつなげること。	
使用教科書・教材・参考書	臨床動物看護学①動物内科看護学	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
診療補助（保定、バイタルチェック）		1
輸液管理（輸液ラインの接続と輸液管理、輸液量と輸液速度の計算）		1
輸血管理（輸血用血液採取、全血の保存、輸血法、モニタリング）		1
シリンジの扱い（シリンジの扱いと薬剤準備、注射法に応じたシリンジの準備）		1
採血時の補助		1
調剤		1
投薬方法		1
外耳処置時の補助		1
エリザベスカラーの装着		1
腹帯の装着		1
創傷管理		1
罨法		1
吸引法（サクション）		1
口腔内衛生管理		1
検体処理（血液凝固剤、尿採取法と保存法、採便法と保存法、貯留液処理における採取法と保存法）		1
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物福祉・倫理	
担当教員の実務経験	ペットサロンにてトリマーおよび生体販売の経験がある	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年生	
授業時間数・単位数	15コマ	1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	動物愛護や動物福祉(アニマルウェルフェア)、およびその基礎となる生命倫理の考え方について学ぶ。	
授業の到達目標		
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A (80点以上) ・ B (60点以上) ・ C (40点以上) ・ D (40点未満) とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	応用看護学①人間動物関係学 応用動物看護学③動物行動学	
授業上の注意点		
授業計画 (内容)		コマ数
第1章 さまざまな動物観と影響要因 1. 動物に対するさまざまな考え方と影響を与える要因 2. 動物観の歴史の変遷 3. 動物生命倫理とは 演習問題		3
第2章 動物福祉の概念 1. 動物福祉とは 2. 近代の動物愛護運動 3. 現代の動物愛護運動 4. 動物の権利 (animal rights) と動物福祉 (animal welfare) 5. 日本における動物愛護と世界における動物福祉 演習問題		3
第3章 動物福祉の評価 1. 動物福祉の評価とは 2. 動物福祉の生理学的指標 3. 動物福祉の行動学的指標 4. 課題 演習問題		2
第4章 動物福祉と社会 1. 動物福祉と社会 2. 法律と動物福祉 3. 経済活動と動物福祉 4. 動物福祉教育 5. 動物保護活動 演習問題		2
第5章 伴侶動物の福祉 1. 伴侶動物の飼育の現状と福祉 2. 家庭での適正飼養と動物福祉上の問題 3. 伴侶動物の繁殖・流通・利用に関する福祉上の問題 4. 飼育放棄と飼い主のいない犬・猫の問題		2

5. 伴侶動物福祉のための対策 演習問題	
第6章 展示動物および使役動物の福祉 1. 展示動物の福祉 2. 使役動物の福祉—身体障害者補助犬（補助犬）を中心に— 演習問題	2
	合計 15
	授業単位数 1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物臨床栄養学	
担当教員の実務経験	① 管理栄養士として事業所等での実務経験 ② ペット栄養管理士としてお節料理の受注生産 動物看護師としてフードアドバイス	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年	
授業時間数・単位数	30コマ	2単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。	
授業の到達目標	個体に合わせた食事管理、アドバイスができるようになる。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート課題の達成度80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	前回のプリント課題の復習	
使用教科書・教材・参考書	中村丁次監修「栄養の基本がわかる図解辞典」成美堂出版 臨床動物看護学②動物臨床栄養学 動物栄養学	
授業上の注意点	積極的に授業に参加し、課題について考察する。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 健康寿命について	秋田県民の食生活指針	1
2. 個々人の食事について	体格指数の計算 社会の変動と食生活 国内自給率	1
3. 栄養、栄養素について	食事摂取基準について	1
4. 食欲のしくみ		1
5. 消化のしくみ	吸収のしくみ 排泄のしくみ	1
6. バランス献立の基本型	3回食が体に良いわけ 調理について	1
7. ライフサイクルと栄養	①妊娠中の栄養と食事・乳幼児の栄養と食事	1
8. "	②小学生の栄養と食事・中高校生の栄養と食事	1
9. "	③成人の栄養と食事・高齢者の栄養と食事	1
10. 食物アレルギーについて		1
11. 食品表示、食中毒、食の安全について		1
12. 症状別栄養	① 肥満、糖尿病、がん、動脈硬化 他	1
13. 症状別栄養	② 脂質異常症、高血圧、脳卒中、心疾患 他	1
14. 症状別栄養	③ 肝機能低下、消化器系・腎機能低下 他	1
15. 災害時の食対応について	まとめ	1
16. 犬と猫の基礎栄養	(食性、摂食行動、嗜好性、異嗜、摂食量、飲水量、禁忌食)	1
17. 栄養評価	(エネルギー評価法、栄養要求ガイドライン、ライフステージ、栄養状態評価)	1
18. フード	(歴史、種類、製造方法、原料、サプリメント、法規制)	1
19. 栄養指導	(栄養診断、標準体重、適正給与量、フードの選択、肥満)	1
20. 疾病と栄養の関係	(慢性腎臓病、尿石症、心血管系疾患、消化器疾患、肝疾患、糖尿病、アレルギー)	2

21. 栄養管理（非経腸栄養法の必要な疾病と実施方法、経口栄養剤、強制給餌、経胃栄養剤、経腸栄養剤、カテーテルの維持管理、食事管理失宜による症状と対応法）	1
23. 療法食	1
24. 手作り食	6
まとめ、確認テスト	1
	合計 30
	授業単位数 2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物臨床看護学 I	
担当教員の実務経験	動物看護師としての経験がある	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年生	
授業時間数・単位数	30コマ	・ 2単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	
授業の到達目標	専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	臨床動物看護学③動物臨床看護学総論	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
第 2 章 動物臨床看護学を学ぶ上で必要な基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ チーム獣医療における動物看護師の役割 ・ 臨床における動物のQOL維持の重要性 ・ 動物看護管理 ・ 演習課題 	2
第 2 章 動物看護過程	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物看護過程とは ・ アセスメント ・ 看護診断 ・ 看護計画 ・ 看護実践 ・ 看護評価 ・ 演習課題 	14
第 3 章 経過に基づく動物看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフステージ別の動物看護（新生子、幼齢期、成熟期、高齢期） ・ 急性期の動物看護（急性期とは、経過別の動物看護の特性） ・ 回復期の動物看護（回復期とは、リハビリテーション） ・ 慢性期の動物看護（慢性期とは、慢性期の通院と在宅での動物看護） ・ 終末（ターミナルケア）期の動物看護（終末期とは、ターミナルケアと看取り） ・ 演習課題 	14
合計		30
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物臨床検査学	
担当教員の実務経験	獣医師 動物看護師	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年生	
授業時間数・単位数	30コマ	・ 2単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得する。	
授業の到達目標		
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	応用動物看護学③伴侶動物	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
第1章 臨床検査の基礎 1. 臨床検査 2. 検査値の考え方 3. 主な検査機器 演習問題		2
第2章 血液検査 1. 採血部位および採血方法 2. 血漿、血清の分離法 3. 全血球計算（CBC） 4. 血液塗抹標本の作製法と染色法 5. 血液塗抹標本の観察法 6. ヘマトクリット管を用いた検査 7. 凝固検査 8. 生化学検査<総論> 9. 生化学検査<各論> 10. 血液ガス分析 11. 免疫学的検査 演習問題		4
第3章 尿検査 1. 尿検体の採取法 2. 尿検体の取り扱い 3. 検査手順 4. 尿沈渣標本に出現する有形成分 演習問題		2
第4章 糞便検査 1. 糞便検査の目的と動物看護師の役割 2. 採便方法と観察 3. 寄生虫の検査 4. その他の微生物検査 5. 消化試験		2

演習問題	
第5章 細胞診検査と病理組織検査 1. 細胞診検査 2. 病理組織検査 演習問題	2
第6章 遺伝子検査 1. 遺伝子検査とは 2. 検体の採取法と取り扱い 3. 遺伝子検査の対象疾患 演習問題	2
第7章 心電図検査と血圧測定 1. 心電計の分類と構造 2. 心電図検査の実際 3. 心電図の評価 4. 血圧測定法と血圧計の構造 5. 血圧測定の実際 6. 血圧の評価 演習問題	2
第8章 X線検査 1. X線検査の目的と動物看護師の役割 2. 放射線とX線撮影の原理 3. 撮影条件とX線フィルム 4. 撮影体位と方法 5. 造影検査 6. フィルムの現像と読影準備 7. 透視撮影とコンピュータX線撮影法 8. 被曝と被曝管理 演習問題	2
第9章 超音波検査 1. 超音波診断装置の原理と構造 2. 超音波検査の実際 3. 超音波検査でわかること 4. 超音波診断装置を用いた特殊な検査 演習問題	2
第10章 内視鏡検査 1. 内視鏡の分類と構造 2. 消化器内視鏡検査の実際 3. スコープの洗浄と消毒 4. その他の内視鏡検査 演習問題	2
第11章 その他の画像検査 1. コンピュータ断層撮影法 (CT) 2. 磁気共鳴画像法 (MRI) 3. 核医学検査 演習問題	2
第12章 神経学的検査 1. 検査環境・必要な道具 2. 実際の検査方法 演習問題	2
第13章 眼科検査 1. 視覚検査 2. 眼科神経学的検査 3. シルマー試験	2

4. 眼圧測定 5. 細隙灯顕微鏡検査 6. フルオレセイン染色 7. 眼底検査 8. その他の眼科検査 演習問題	
第14章 皮膚と耳の検査 1. 皮膚科の検査 2. 耳介の検査 3. 耳道の検査 演習問題	2
	合計 30
	授業単位数 2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物臨床検査学実習	
担当教員の実務経験	獣医師 動物看護師	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 1年生	
授業時間数・単位数	45コマ	3単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。	
授業の到達目標	検体、生体、機器を正しく扱うことができる。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	動物看護実習テキスト	
授業上の注意点	実習内で手技を解説し実践しますが、反復練習を行い技術を確実なものとする努力をしましょう。スピーディーな作業も、救える命に直結しています。	
	授業計画（内容）	コマ数
	血液検査	5
	尿検査	5
	糞便検査	5
	細胞診	5
	微生物学的検査	5
	X線検査	5
	超音波検査	5
	心電図検査	5
	その他の検査	4
	テスト	1
	合計	45
	授業単位数	3

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	特別講習（救急救命講習、スキンケア）
担当教員の実務経験	<p>（特別講師 サニー カミヤ） 防災・救急救命経歴 ・レスキュー隊歴12年 福岡市消防局 ・国際救助隊歴6年@福岡市消防局 ・救急隊歴4年@福岡市消防局 ・EMT-D（救急隊員）2年@ニューヨーク州ウェスチェスター郡 ・内閣総理大臣表彰：韓国貨物船沈没事故乗組員4名救出 ・福岡市長表彰、福岡市消防局長表彰：人命救助表彰多数 ・ライフセーバー：オーストラリアライフセイビング協会 ・福岡ライフセイビング協会設立 ・国際消防&防災ジャーナリスト ・海外消防研修コーディネーター&通訳&翻訳 ・海外消防&防災用品仕入れコンサルタント ・防災コンサルタント&アドバイザー ・減災教育訓練指導員 ・災害危機管理アドバイザー ・危険予知トレーニングインストラクター ・各種防災ワークショップ、セミナー講師 詳しいプロフィールはホームページに掲載 (https://petsaver.jp/rep/)</p> <p>（特別講師 山口 巖） 有限会社ワンスクリエイション 勤務 ・ペット業界を理解してもらう為の『ワンポイントセミナー』 ・スタッフ同士のチーム力を上げる『スタッフ育成セミナー』 ・『仕事のやりがいアップ』『スキンケアセミナー』 などを、全国のペットショップ、動物病院や専門学校で開講。</p>
対象学生	ペットビジネス科 1・2年生
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []
授業の概要	<p>（救命講習） 元国際レスキュー隊員でアメリカのペットの救急法指導団体、Pet Techにて「ペットの救急法」のインストラクター、ミネソタのBART「消防士向けアニマルレスキュー」を取得したサニー カミヤが、ペットの飼い主の方から、ペットシッター、ペットホテル、ペットカフェ、ペットトリマー、ペットマッサージ、ペットトレーナー、ペット介護士、ペットの里親活動関係者などのペット事業関係者の方々を対象に開講。「いざというとき助かる命を助きたい！」「ケガをしたペットの応急処置法を知りたい」のために「ペットの救急法（心肺蘇生法、止血法、異物除去法など）」および「災害時におけるペットの倒壊家屋、生き埋め、壁に挟まった状態、川に流されたペットの救助法、マンホール等からの救助法、災害時に使えるロープの結び方各種」などを学ぶ。</p> <p>（スキンケアセミナー） 皮膚構造、肌荒れと皮膚病の違い、アレルギー、スキンケア、シャンプーの選びかたを学び、正しい施術につなげる。</p>
授業の到達目標	ペットセーバーベシック&アドヴァンス講習 修了認定 ペットセーバーERT (Emergency Rescue Technician 救急救助員) 修了認定 犬猫のスキンケアアドバイザー養成講座修了
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験・レポート）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。
準備学習・時間外学習	

使用教科書・教材・参考書	資料配布	
授業上の注意点	感染症拡大防止の観点より、授業内容に変更が生じる場合があります。	
	授業計画（内容）	コマ数
	ペットセーバーベーシック&アドヴァンス講習 日常生活におけるペットの救急法、ペットの事故防止、手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得など	2
	ペットセーバーERT (Emergency Rescue Technician 救急救助員) ペットの倒壊家屋、生き埋め、壁に挟まった状態、川に流されたペットの救助法、マンホール等からの救助法、災害時に使えるロープの結び方各種	2
	災害対策を考える	4
	復習課題（レポート）	2
	犬猫のスキンケアアドバイザー講習	3
	復習課題（レポート）	2
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	ITの職業と情報倫理	
対象学生	経営情報科、情報システム科、こども総合科、医療福祉ビジネス科、総合ビジネス科、ビジネス専攻科、ペットビジネス科	
授業時間数・単位数	10 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	専門学校入学直後の導入科目として、これからの学習への動機付けと、安全のための情報モラル教育を行う。	
授業の到達目標	情報化社会において、被害者や加害者にならないための知識を学び、情報モラルを身につけ、情報機器を有効に活用できるようになること。	
成績評価方法と基準	出席状況及び科目試験の成績により評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	ITの職業と情報倫理（SCC：学習ノート）	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
(1) ITと応用分野		1
(2) IoTとAI		1
(3) ITの職業と資格		1
(4) 悪質商法の被害防止		1
	アンケート、懸賞、割のいいアルバイト、からローン地獄にはまる例から学ぶ。	
(5) 個人情報とパスワード管理		1
	個人情報の大切さ、顔の見えない付き合い、出会い系以外にもある危険。	
(6) 不当請求と迷惑メール対策		1
	迷惑メールはどこから来るのか。こんな請求、払う？払わない？個人情報の流出。	
(7) メールや掲示板のマナーと法律		1
	気軽な発言や画像送信で名誉毀損・プライバシー権侵害に。誰が書き込んだかはこうしてわかる。	
(8) 著作権		1
	やっていいことと悪いこと。 アニメ、音楽、「みんなやってるから」の大間違い、違法と合法の境目	
(9) 逮捕されるネットユーザたち		1
	他人のIDでゲームをして逮捕、冗談のつもりが犯行予告騒ぎ、など。	
(10) コンピュータウイルスと対策		1
	感染するとどうなるのか。感染しないための予防策を学ぶ。	
	合計	10
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	ドッググッズ製作 I	
対象学生	ペットビジネス科 1年	
授業時間数・単位数	15コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	愛犬と飼い主さんが喜んでくれるよう、心を込めて愛犬の身に着けるグッズをリボンを中心として制作する。	
授業の到達目標	リボンの作り方と素材の扱い方、安全安心なグッズ制作ができる。	
成績評価方法と基準	各課題評価80%、授業態度出欠席20%	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
授業計画（内容）	コマ数	
	リボン制作材料の準備、リボンA作り方の説明と師範	1
実習	リボンA制作	2
	リボン仕上げの説明と師範	1
実習	リボンA仕上げ	2
	リボンB作り方の説明と師範	1
実習	リボンB制作	2
	ミニハットの作り方の説明と師範	1
実習	ミニハット制作	2
	バンダナの作り方と師範	1
実習	バンダナ制作	2
合計		15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	校外研修 I	
対象学生	ペットビジネス科 1年	
授業時間数・単位数	25 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	県外のペット企業ならびにペット関連イベントの見学を行う	
授業の到達目標	業界への理解を深め、視野を拡げる。	
成績評価方法と基準	出席状況及び科目試験の成績により評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点	「全国家庭犬訓練・トリミング競技会」の見学を予定しているが、今年度は「即位礼正殿の儀」が祝日として設けられたことにより、他のイベントとの日程調整が必要となります。そのため、「ペット博」の見学に変更になる可能性があります。秋田情報ビジネス専門学校の学生として自覚を持った行動をすること。	
	授業計画（内容）	コマ数
	研修旅行オリエンテーション、グループ分け、訪問企業の決定、しおり作成	3
	国内研修旅行②ペット分野に対する理解を深める／東京もしくは大阪 2泊3日	20
	ペット関連イベントの見学	
	特別研修会（ペットサービス企業訪問）	
	テーマパークにておもてなしを学ぶ	
	グループ別企業訪問	
	グループ別自由行動	
	レポート提出	2
	合計	25
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	就職実務 I	
対象学生	ペットビジネス科 1年生	
授業時間数・単位数	18コマ	1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	社会人として必要となるビジネスマナーの基礎を学ぶ。 職種、企業に対する理解を深める。	
授業の到達目標	ペット業界に求められる基礎的社会人能力を身につける。 就職に対する目的意識を明確にする。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習	常に就職に対する意識を高くもつこと。	
使用教科書・教材・参考書	動物系専門学校生・トリミングスクール生のための コミュニケーション・マナー&キャリア・ガイダンス（インターズー）	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
挨拶と掃除と“5S”の基本		1
コミュニケーション・マナー		
身だしなみ、あいさつ、敬語		1
電話対応、聞く力		1
プレゼンカ		1
キャリア・ガイダンス		
自己分析		3
自己紹介（自己PR）		3
希望職種研究		2
希望企業研究		2
フィールドワーク		1
キャリアプランニング		1
就職活動について		1
インターンシップについて		1
合計		18
授業単位数		1